

## 福田貝塚（岡山県倉敷市）の岡山県立博物館寄託資料

—岡山理科大学博物館学芸員課程所蔵コレクションについて（3）—

小林博昭・徳澤啓一・酒井雅代\*

岡山理科大学総合情報学部社会情報学科

\*鳥取県八頭郡智頭町教育委員会教育課

(2007年9月27日受付、2007年11月2日受理)

### 1. 今回の紹介資料について

本遺跡では、1950年の第1次調査及び1951年の第2次発掘調査において、縄文時代後期前葉の出土遺物が検出されている（以下、「福田貝塚資料」という）。

「福田貝塚資料」は、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所（奈良市）、財団法人倉敷考古館（岡山県倉敷市）が所蔵している。また、「福田貝塚資料」の半数以上は、鎌木義昌が所蔵し、本学博物館学芸員課程に受け継がれてきた（以下、「鎌木資料」という）。また、「貝塚の発見当時、西日本で珍しく、復元（原文のとおり）可能な土器片が多量に採取されたため」（鎌木1986）という記載がある。しかしながら、これまでの整理作業の印象では、復元可能個体が僅少といわざるをえない。推測の域を出ないが、岡山県史編纂事業等に伴って、復元個体を中心として、「鎌木資料」の一部が所在不明になったと考えられる。

まずは、「岡山県史」に所収してある「鎌木資料」の所在確認が先決と判断し、岡山県立博物館の寄託資料を照会したところ、本資料と邂逅する結果となった。石膏によって復元処理と彩色が施されていたものの、経年変化によって著しく汚濁・劣化した状態にあった。本資料は、「岡山県史」をはじめとする文献に所収されていない未発表資料である。また、2006年10月11日、鎌木英子様から本学博物館学芸員課程に対して、「鎌木資料」の図面及び写真等をご寄贈いただいた。

本稿では、本資料に関する写真資料とあわせて、岡山県立博物館寄託資料を紹介することにした。

### 2. 福田貝塚資料について

#### 資料1（第1図1）

注記は「I\_I\_F\_3」（以下、\_は空白の表記とする）と表記され、「第1地点第I区F3層」が出土分布区分である。

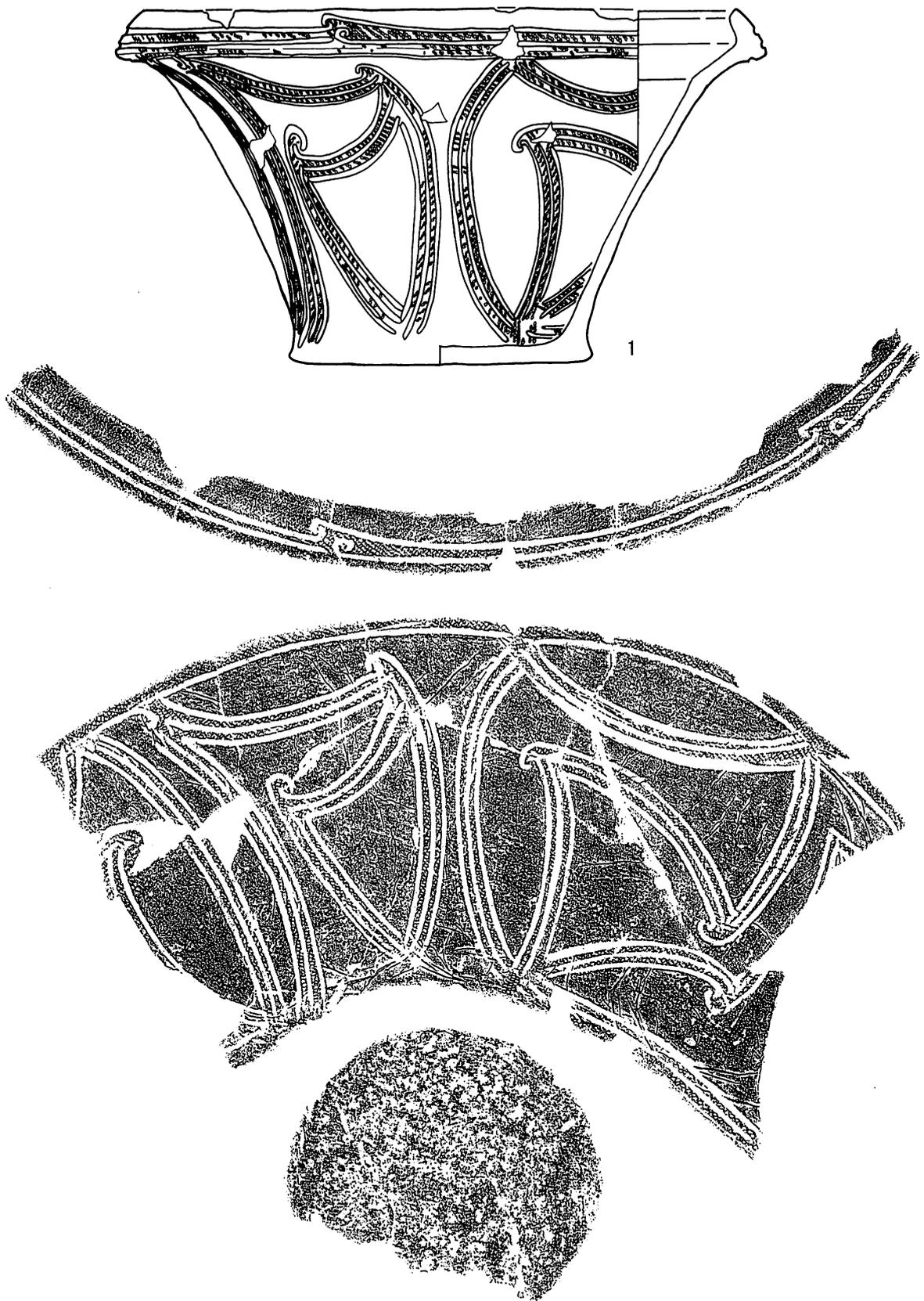
資料1は、口縁部が開く植木鉢形の鉢で、本遺跡が標識とされる「福田K2式土器」である。口縁部が平縁

で口縁端部が拡張・肥厚し、強く屈曲する。内面には、屈曲部下方に稜を一段もち、底部は平底である。文様は、口縁部と屈曲部直下に横位の沈線を3本施し、一定間隔で途切れる沈線端部は、入り組み状・渦状に施文される。胴部は3本1単位の沈線が縦横に伸びて、縄文帯が磨り消される。一部入り組み状に施文される。縄文は単節縄文RLである。外面の空白部と内面は強い研磨が確認できる。磨消縄文帯に赤色顔料を塗彩する。

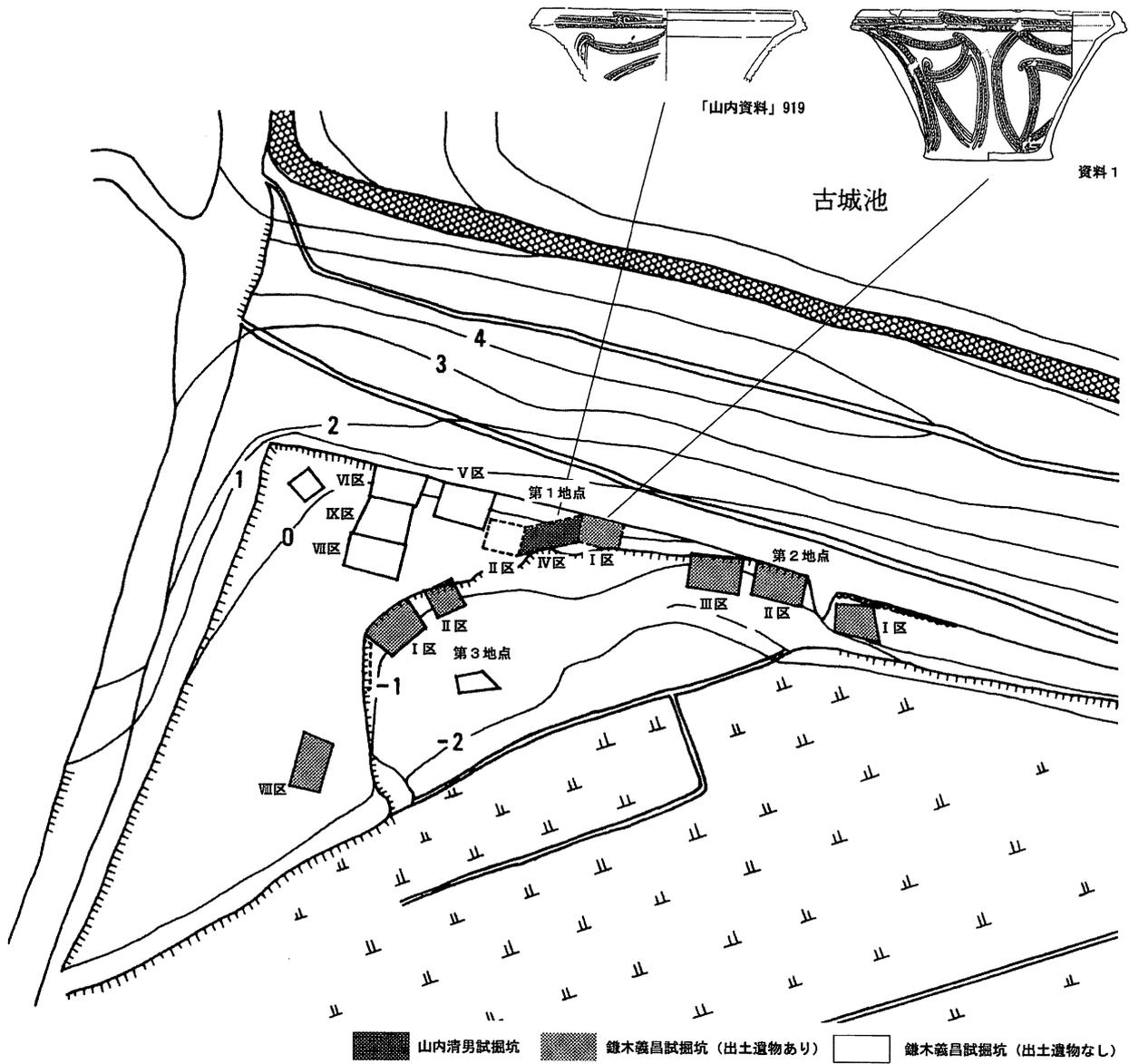
残存率は約1/2で、口径30.0cm、器高18.0cm、底径15.4cmを測る。色調は、外面がにぶい黄橙色(10YR 6/4)、内面が灰褐色(7.5YR 4/8)、赤彩部が赤色(7.5R 4/8)を呈する。胎土は密。焼成は、良好である。

### 3. 資料1と「山内資料」の接合可能性について

資料1は、「第1地点I区F3層」から検出されている。さらに、寄贈された写真資料（写真1・2）を見ると、資料1が「I区」トレンチの北壁真際に検出された様子が写し出されている。すなわち、山内清男が発掘調査を行った「IV区」トレンチと隣接する出土分布であることから、「山内資料」にも同一の個体別資料が存在することも想像に難くない。そのため、「山内清男考古資料」（泉1989）を照会することにした。資料1と同じような「福田K2式土器」については、第V群第16類として取り扱われている。このうち、919は、口径・器形等を見ると、資料1と同一個体である可能性がある。また、文様構成を見る限りでは、919の出土分布は、資料1の文様と連続し、第1図口縁部左端と接合する可能性がきわめて高い。また、「FKIS7」、つまり「FKIS07」の注記があるとおおり、「IV区」トレンチの中で、「1区南壁地点」の「下部貝層」から検出されている。「1区南壁地点」は、資料1が検出された「I区」トレンチの北壁と表裏関係にあり、出土分布もきわめて近接している。将来、「鎌木資料」の整理作業の進捗にあわせて、資料1と919をはじめとして、資料間の接合可能性を検証する必要もあるだろう。



第1図 福田貝塚 遺物実測図 (1/3)



第2図 資料1及び「山内資料」919の出土状態 (1/100)

(鎌木1986・泉1989 抜粋一部改編)



写真1 資料1の出土状態①

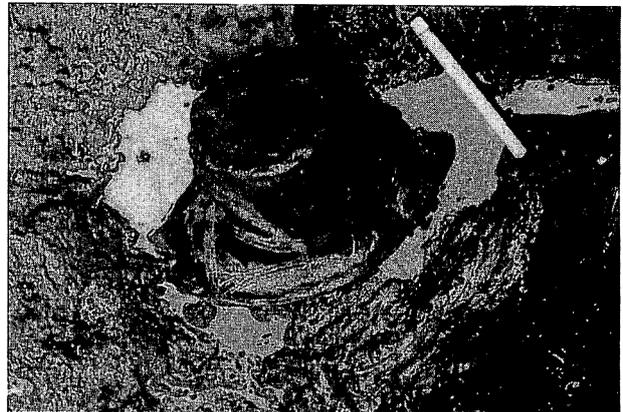


写真2 資料1の出土状態②

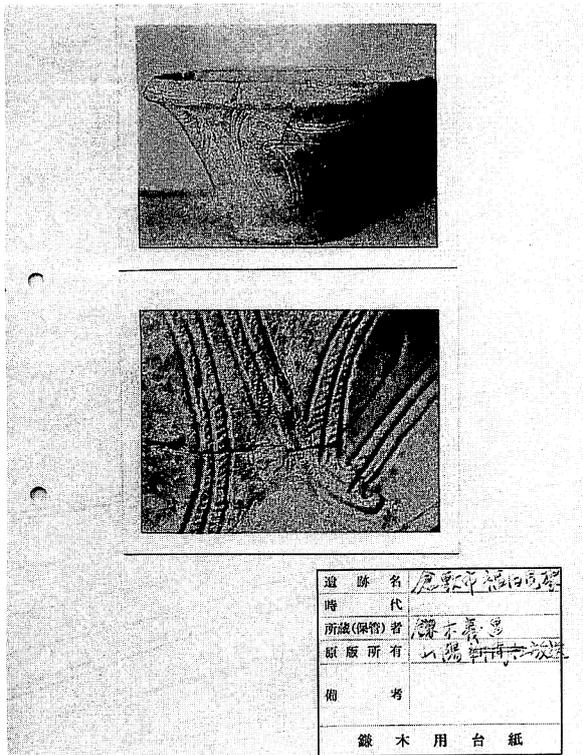


写真3 福田貝塚に関する写真資料の整理状態①

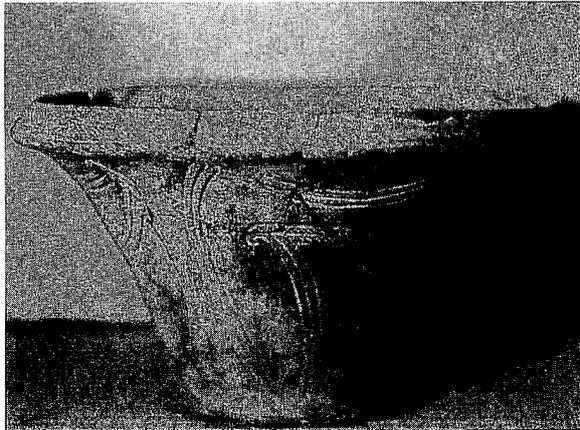


写真4 資料1 (岡山県立博物館寄託資料) ①



写真5 資料1 (岡山県立博物館寄託資料) ②



写真6 資料1 (岡山県立博物館寄託資料) ③

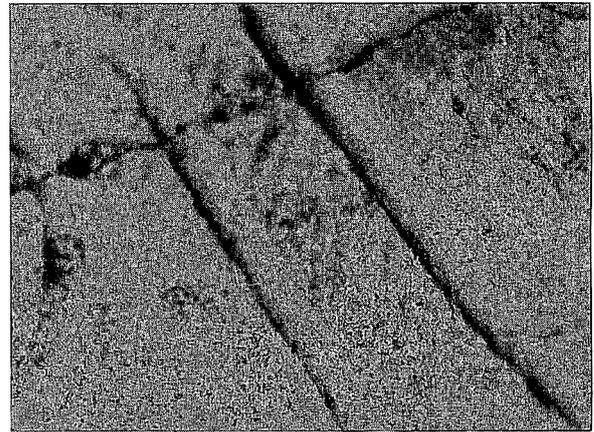


写真7 資料1 (岡山県立博物館寄託資料) ④

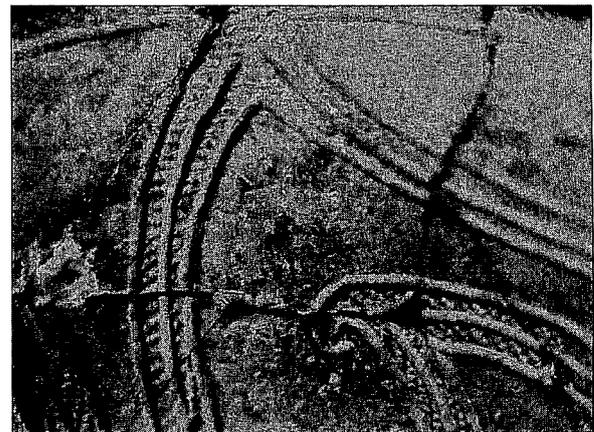


写真8 資料1 (岡山県立博物館寄託資料) ⑤

附記 寄贈された写真資料は、「鎌木用台紙」に糊付けされた状態で整然と整理されていた。写真4・5が同一の台紙、写真6～8は、それぞれの台紙に貼付されていた。写真4～8は、遺跡名「倉敷市福田貝塚」、所蔵(保管)者「鎌木義昌」と記入され、原版所有「山陽放送」と記載してあった。これは、撮影者の所属、フィルム等の保管者と推測されるが、定かでない。また、撮影日時、撮影場所等の情報も欠落しており、今後の整理作業で明らかにしていかなければならない。

写真図版



福田貝塚 出土遺物 (1/3)

## 謝 辞

本稿の作成にあたって、下記の皆様よりご指導・ご教示を賜った。厚くお礼申し上げる次第である。

鎌木英子 高橋 護 間壁忠彦 間壁菫子 柳瀬昭彦  
佐藤寛介 正木茂樹 木田 真 亀田修一 白石 純  
富岡直人 小沢加枝 都志見有希  
岡山県立博物館 財団法人倉敷考古館

## 参考文献

水原岩太郎 1935 『岡山県浅口郡黒崎村中津貝塚発見縄文土器模様』(私家本)  
鎌木義昌・木村幹夫 1956 「Ⅲ 各地域の縄文式土器～中国～」『日本考古学講座』第3巻(縄文文化) 河出書房 188～201頁  
鎌木義昌・高橋 護 1965 「9 瀬戸内(縄文文化の発展と地域性)」『日本の考古学』Ⅱ(縄文時代) 河出書房 230～249頁

池葉須藤樹 1971 『岡山県児島郡灘崎町彦崎貝塚調査報告』(私家本)  
間壁忠彦 1980 「縄文後期彦崎KⅡ(竹原)式土器をめぐって」『倉敷考古館研究集報』第15号 倉敷考古館 76～89頁  
鎌木義昌 1986 「17 福田古城貝塚」『岡山県史』第18巻(考古資料) 岡山県 43～46頁  
泉拓良・松井章 1989 『福田貝塚資料～山内清男考古資料2～』(奈良国立文化財研究所史料第32冊) 奈良国立文化財研究所  
鎌木義昌 1992 「第2章 縄文時代」『岡山県史』第2巻(原始・古代Ⅰ) 岡山県 56～102頁  
佐藤寛介 2004 「倉敷市中津貝塚出土の縄文土器」『研究報告』23・24号 岡山県立博物館 1～29頁  
小林博昭・徳澤啓一・酒井雅代 2006 「福田貝塚(岡山県倉敷市)の縄文土器～岡山理科大学博物館学芸員課程所蔵コレクションについて(2)～」『岡山理科大学紀要』第42号 B 13～20頁 岡山理科大学

## The Deposit Material of Okayama Prefectural Museum , the FUKUDA Shell Mound

—About the collection of Okayama University of Science,  
Museum Attendant Program (3)—

Hiroaki KOBAYASHI, Keiichi TOKUSAWA and Masayo SAKAI\*

*Department of Socio-Information, Faculty of Informatics,  
Okayama University of Science  
1-1 Ridai-cho, Okayama 700-0005, Japan  
\*Section of Education, Board of Education,  
Chizu town, Yazu County, Tottori prefecture  
2072-1, Chizu, Chizu-cho, Tottori 689-1402, Japan*

(Received September 27, 2007; accepted November 2, 2007)

In this article, in material of the Fukuda shell mound, we introduce a part of the Kamaki material that the Museum Attendant Program in our university possesses. The Kamaki material is "Fukuda K2 earthenware" in the latter Jomon period produced. "Fukuda K2 earthenware" is very rare. But we cannot erase the impression that the Kamaki material is dispersed and scattered.

Now, we found "Fukuda K2 earthenware" in Okayama prefectural museum. We decided to use this opportunity to make measured drawings, do a rubbing, and clarify contents about the types of "Fukuda K2 earthenware".